

令和5年度第1回 三鷹市環境保全審議会議事録（要旨）

開催日時：令和5年7月21日（金） 午後2時30分から  
元気創造プラザ5階 災害対策本部室

<出席委員>

斉藤委員、田中委員、浅野委員、金原委員、是井委員、青砥委員、利谷委員、成田委員、山田委員、石井委員、平井委員、飯島委員、千葉委員

<傍聴人>

0人

<次第>

- 1 委員の委嘱
- 2 委員自己紹介
- 3 会長あいさつ
- 4 市長あいさつ
- 5 事務局より事務連絡
- 6 議題

- (1) 三鷹市環境基本計画2022（第2次改定）の進捗状況について
- (2) 第4期三鷹市地球温暖化対策実行計画（第1次改定）素案について
- (3) その他

<配付資料>

- 資料1 三鷹市環境基本計画2022（第2次改定）の進捗状況（令和4年度実績）  
資料2 第4期三鷹市地球温暖化対策実行計画（第1次改定）素案

<議事内容（要旨）>

- 1 三鷹市環境基本計画2022（第2次改定）の進捗状況について

◇環境政策課長：資料1「三鷹市環境基本計画2022（第2次改定）の進捗状況（令和4年度実績）」により、計画の数値目標と進捗状況などについて説明。

◆委員：環境目標1のオキシダント濃度については、三鷹市だけでは難しい問題であり、この指標自体は適切なのか。また、環境目標2の保存樹木についても、保存樹木の本数ではなく樹木全体を考えられるように、計画改定の際には指標の在り方を見直すことも一つの方法かと思う。

◇環境政策課長：オキシダント濃度については、確かに急な改善が望めるものではないが、環境基準が設けられていることもあり、改善していかなければならない項目として見せることは

必要と思っている。また、保存樹木については、伐採されたわけではないが保存樹木から外れるものもあり、市全体の樹木を数値化できるかといったところも大事かと思う。緑と公園課と共有しながら考えていきたい。

◇生活環境部長：全体的な緑については、農地面積や緑被率、生垣化率といった数字も参考にしていただければと思う。

◆委員：環境目標4について、家庭の電気とガスが増えているとのことだが、どうやって改善していくと考えているか。

◇環境政策課長：やはり省エネが大事であり、照明のLED化や建物の断熱など改善できるところがある。他に太陽光パネルの設置やクリーンエネルギーの活用などにより改善していきたい。

◆委員：各家庭で在宅ワークを行う場合と、広いところに集まれるスペースを設けるのと、どちらが温室効果ガスの排出が少ないか。

◇環境政策課長：クールシェアという言い方もあるように、個別にいるよりはまとまっている方がエネルギー消費は少ないと思う。

◆委員：環境目標4の温室効果ガス総排出量について、人口が増えたら温室効果ガスの総排出量もちろん増えるので、一人当たりの温室効果ガス排出量というのを表示して、合わせて見るようにしてはどうか。また、その排出係数はどんな単位なのか。

◇環境政策課長：一人当たりでどれだけ減らすかということも非常に大事であると思う。一方で、目標を市全体で半分とかゼロにするとかといった形で掲げているので、複合的な分析も含めて考えていく。排出係数の単位は、CO<sub>2</sub>換算となっており、具体的にはkg-CO<sub>2</sub>/kWhとなる。

◇生活環境部長：三鷹市の人口は、令和4年まではずっと、千人ぐらいつつ増加の状況が続いてきたが、令和5年は若干減少となっている。一方で、世帯数は増えており、今後、どのように推移していくか注目していく必要がある。

◆委員：環境目標3の農地面積について、22年度171haが140haまで減っているが、達成というイメージなのか。

◇環境政策課長：年々、減りながらも最低ここまでは維持しようという目標であり、何とかクリアできている形である。

◆委員：策定時は171haだったものが、140haに落ちているけど達成したということか。

◆会長：140haは維持しよう、そういう言い方であると思う。

◆委員：理解した。

◆委員：環境目標4について、達成した目標値はアップデートしてより高い目標値を設定してはどうか。

◇環境政策課長：目標の立て方も含めて検討していきたい。

## 2 第4期三鷹市地球温暖化対策実行計画（第1次改定）素案について

◇環境政策課長：資料2「第4期三鷹市地球温暖化対策実行計画（第1次改定）素案」により、素案の概要などについて説明。

◆委員：自治体新電力の設立とは、どんなものか。

- ◇環境政策課長：電力会社を作って、太陽光や廃棄物発電といった電気を集めて、市民の皆様に使っていただく。できるだけ、三鷹市内で作った電気を市民の方に使っていただく。最初は、なかなかそこまではいかないにしても、例えば公共施設の電気は作った電気で賄う。循環するようになったら一般家庭に広げるといふかたちで段階を踏むようになるかもしれないが、脱炭素化の第一歩として、出来る限り化石燃料を使わない、そういった電力を調達しながら三鷹市民はクリーンな電気を使うというものになる。
- ◆委員：家庭と業務で74%排出しているとのことであり、市民も取り組んでいかないと考えるが、市民と事業者の対話を進めていけないか。また、小学生が事業者にインタビューするなど環境教育の一環として教育部門とも連携して、多様な主体が学びあえるような取り組みが進められないか。
- ◇環境政策課長：インタビューなどにより、輪を広げていくことは非常に大事かと思う。市でも、みたか環境活動推進会議というものがあり、市民や事業者、NPO、住民協議会の方など多様な方々がイベントを企画し、啓発情報を発信している。そんな形で小さな一歩ではあるが、周知をしており、広がっていけばと思っている。
- ◆委員：市内の再生可能エネルギー導入ポテンシャルについて、太陽光パネルの助成対象は新築だけか。
- ◇環境政策課長：既築も対象としている。
- ◆委員：三鷹市の助成金は、近隣と比較して高いのか。
- ◇環境政策課長：ほぼ同程度である。
- ◆委員：一軒家の太陽光パネルで一軒の電気が賄えるか。余ったりするか。
- ◇環境政策課長：建物の形状などにより、一概には言えない。また、断熱を進めることで建物の熱を逃げないようにするなどにより、賄えるといったこともある。三鷹市では、今年度から窓断熱も進めている。
- ◆委員：地域間連携とは、関東圏を想定しているか。
- ◇環境政策課長：まだイメージは無いが、関東とは限らない。
- ◆委員：例えば姉妹都市か。
- ◇環境政策課長：一つの可能性としてはある。
- ◆委員：土地を買うのか、借りるのか。
- ◇環境政策課長：どういふ方法かはこれからの検討であるが、例えば、地元の雇用で電気を作る。それを三鷹市で買うなど、まだイメージまでは無いが、ただ、お互いがwin-winな形になるようなものを考えている。
- ◆会長：検討の2や3というのとは、もう具体的なものがあるのか。
- ◇環境政策課長：これから検討していく。
- ◆委員：検討4のカーボンオフセットについて、市民としては、これによって税金が上がるのか、どのくらいお金がかかるのか気になる。我々市民としても、そんなに買わないといけない、税金がこんなに上がるのか、というふうになると、逆に自分達も減らさなきゃいけないなというマインドになるかと思う。もう少し具体的な数字を示した方が、分かりやすいのではないか。

- ◇環境政策課長：具体的な試算はできていないが、かかる金額を見せながらというのは、皆様に考えていただきやすく、分かりやすいと思うので、検討していきたい。
- ◇生活環境部長：基本的には、新しい施策をすることで税金を増やすということは、取りにくい手段であり、限られた税収の中でやりくりしていくのが基本だと思う。